

38) 外妊手術時、気管内麻酔に合併せる偽膜性喉頭炎

大塚太一郎, 町沢清一郎
島田 勉, 若月美博

近時全身麻酔は我が婦人科領域に於てもあまねく普及しその手術に対する貢献は著しく手術侵襲の広範且つ安全に行われるようになったことは諸家の承認するところである。我が教室に於ても過去3年間に1000例以上の全麻により開腹手術が行われ、此の1000例中1例の挿管による合併症としての偽膜性喉頭炎を経験し窒息状態に到つたものに気管切開を行い治療せしめたのでその発生、症状、成因、予防等について報告する。

39) 腔トリコモナス症に対する数種薬剤使用例

斎藤喜一郎, 工藤純孝
小松崎 孝, 藤崎皓文
村上喜雄, 佐々木寿三郎

帯下を主訴とする患者中鏡検によりトリコモナスを証明できた者に次の薬剤を投与して次の結果を得たので報告する。

- 1) ギネラン 症例—24例中、一次治癒—24例、再発を見たもの—7例
- 2) トリコフロン 症例—9例、一次治癒—8例、再発を見たもの—1例
- 3) トリコマイシンK錠 症例4、一次治癒3例、再発—1例
- 4) フラジール 症例5、一次治癒5例、再発—無し「夫婦に内服併用」

腔カンジダ症併発例にはギネランを用いた。ピンホン感染が再発に対して有力な原因となり得ることはフラジール投与例からも知れる。未婚例ではそうでない者より治癒しにくい。以上の薬剤使用において腔内PH等何ら見るべき変化・副作用はなかった。

40) Pyridoxal による妊娠悪阻に対する使用経験

高見沢裕吉, 滝口光雄
染谷 昇, 山口 順
飯島日出男, 土居温良

近年活性化型磷酸化ピリドキサールが妊娠嘔吐悪阻の治療に有効であり生理的有効な治療薬としてすぐれていると言われている。著者らはエーザイ提供によるB. Z. 注射液を使用し、主として産婦人科領

域に於いて妊娠初期(2, 3カ月)の患者(悪心, 嘔吐, 食欲不振)を訴えるものを対称として投与してその臨床症状におよぼす影響をみたので、その使用成績を報告する。投与方法, B. Z. 注射液は1管中に活性化磷酸ピリドキサール10mgを含有する。これを1日10mg 1日~10日筋注及び静注を行つた。B. Z. 注射液を単独か, 20%葡萄糖+ Vit B₁ 又は40%葡萄糖+ Guronsan と併用して行つた。症例31例のうち有効例24例77%(著効例5例)で無効例5例16%, 不明2例6%であつた。副作用は大多数の症例に於いて認められなかつた。本注射液は夏季に主として使用したのでB. Z. 単独による症例は多くを得られなかつた。以上のことによつて妊娠初期の悪阻の治療にB. Z. 注射液が有効であることが判明した。

41) 腔カンジダ症に対するクロールダントインの使用経験

大塚太一郎, 斎藤喜一郎
工藤純孝, 山口龍三郎
大沢茂樹

最近数多くの広スペクトルの抗生物質、及びスルフォンアミド剤の使用により、所謂、菌交代現象が非常に問題となつている。産婦人科外来を訪れる患者のカンジダ検出率は、いづれの分献を見ても、非妊婦10~21%, 妊婦20~30%と可成りの高率を見ている。すなわち帯下を主訴として外来を訪れる患者の中に可成りの高率でカンジダ性腔炎を認めうるものと思われる。

このたび、我々は、エーザイ製薬により新しく合成された抗カンジダ剤クロールダントイン腔錠を使用した結果、自覚的症状、他覚的症状に於て殆んど全例が好転し、培養成績に於てその89%が陰性化し、pH及び清浄度、グリコーゲン係数には悪化は認められなかつた。又副作用も認められなかつた。

以上、クロールダントインは、認むべき副作用なく、カンジダに有力な新らしい、治療剤である。

42) 更年期障害様症候群に対する

γ-Oryzanol の経口投与による臨床治験例

村瀬 靖, 飯島日出男
菊池 昇, 鈴木政治

吾々は今回閉経期前後の更年期障害、卵巣除去の更年期障害様症候群に対して、米胚芽より抽出された所のγ-Oryzanol 経口投与治験例を報告する。

本剤は1錠5mgの錠剤にして連続投与によりそ

の治療効果を得るものである。

投与例数 30 例, 著効 3 例, 症状の軽快 8 例を得た。尚本剤投与にはホルモン剤の併用は行つて居らず単独投与による。

副作用については乳房痛, 浮腫, でありいずれも短期間に消失した。

本病像は複雑なものである。これのみの投与に治療効果を求めることなく, 他薬剤との併用, 精神療法などを行いつつ, 今後本薬剤の持つ特色を生かすこととしてゆきたい。

43) 抗癌剤 merphyrin の臨床治験例

村瀬 靖, 宇田川敏二
神谷茂数, 貞光利造

癌治療の一方向である化学療法として制癌剤は種々あり, その多くは何れも白血球減少を主とする副作用の為, 長期使用が困難である。そこで吾々は動物長期使用試験で毒性, 副作用が少く, 癌細胞に親和性をもち, 生体に新陳代謝を亢進させると云われる, 水銀ヘマトポルフィリンナトリウム塩なる制癌剤 merphyrin (略称MH) を用い, 手術不能及び術後で放射線照射を行つている癌患者に MH 総量 250 mg 静脈内投与し, 放射線療法上の副作用に及ぼす影響を主として血液像を中心とした諸点について MH 投与せぬせのと比較し検討した。

MH は他の制癌剤と異なり, 白血球減少をほとんど来たさず, それに加えて体重増進, 食欲亢進等の好ましい影響がみられ, 副作用がほとんどなく, 為に長期投与が充分可能であることが推測され, 且つ放射線療法及び既存の制癌剤の使用不能の患者にも使用可能なる結論を得た。

44) 産婦人科領域に於ける精神身体症

時永達己, 平沢東一
増島頼三

精神身体医学 (P. S. M) 及び精神身体症 (P. S. D) について概説し, 不感症で面接した症 1 例を報告した。本教室外来を冷感症の主訴で訪れた患者数は極めて少なく, 延外来患者数 11563 名中 5 例しかない。(性交痛及び夫側の不満例は除く) そのうち性感を対照にした治療を行なつたのは 3 例であり, 1 例はボセルモン投与により, 他の 2 例に面接した。

面接例の 1 例は Onanie 常習者で未発達段階の性感覚所有者で, 他の 1 例が今回発表した心因性不感症である。嫁姑間の不和, 夫への不満と不安が, 妊

娠中絶後の身体条件に相乗されて性交拒否を生み出していると思われ, 説得により自覚をうながす一方 バランス 20 mg 1 月投与で軽快している。Kinsey その他の報告によれば性的不満者は更に多い筈であり, 性教育の発達普及に伴い, 今後, 不感症の主訴で訪れる患者は増加するのではないかと思う。

45) 動脈管開存症の帝王切開経験

島田 勉, 高橋 剛
滝口光雄, 鈴木通也
稲葉博満

先天性心疾患を合併した妊娠例の報告は少い。われわれは最近, 動脈管開存症に胎児性内膜炎性僧帽弁狭窄, 閉鎖不全を合併した症例に遭遇した。

25 才, 1 回経産婦 (当科にて以前帝切), 妊娠 10 カ月, 上記心疾患の診断で, 6 月 27 日帝王切開を施行した。麻酔は, 前麻酔としてアトロピン 0.5 mg 麻酔維持は笑気, S. C. C の間歇投与で無事手術を終了, 術中経過も良好で母児共に無事退院したものである。

心疾患を合併した場合, 予め内科的療法で症状を好転せしめておいて, 適当な時期に帝王切開を行うのが, 比較的侵襲も少く良い方法の様に思える。本症例のみならず, 当教室でおこなつた心疾患の帝切例についても検討した。

46) 吾教室に於ける過去 10 年間

(昭和 26 年~35 年度) の帝王切開の統計

島田 勉, 本橋しづ子
飯島日出男

産婦人科領域に於いて重要部門を示める帝切は麻酔技術の進歩, 新生児管理の充実, 血液銀行の完備などにより, 一層その真価を発揮して来た。ここに帝切例 185 例 (分娩総数 4975 例) について, 年令別, 経産回数より見た考察, 適応症, 麻酔法の変遷更に母体予時, 児予後に関して統計的考察を試みたので報告する。

47) 口腔粘膜にアフタ様潰瘍を伴える陰門潰瘍

高見沢裕吉, 田中 穰
堀 敬明

急性婦人陰門潰瘍は 1904 年 Lipschütz により記載された比較的稀な疾患である。吾々は今回口腔粘膜にアフタ様潰瘍を伴える陰門潰瘍を経験した。患者は 33 才 3 回経産婦である。初発症状は陰部にヒリヒリする痛みを感じ軽度の発熱を来した。外陰所